

# 青少年専門員だより

81号

令和7年12月1日



## 山形県青少年健全育成県民大会

令和7年10月26日（日）に荘銀タクト鶴岡を会場に、令和7年度山形県青少年健全育成県民大会が開催されました。県内の青少年健全育成関係者が一堂に会して、課題の共有を図るとともに、問題解決や実践活動への決意を新たにするとともに、大会となりました。

山形県青少年育成県民会議表彰では、米沢市の鈴木彰一氏と鈴木のり氏を含め10名の方が、また、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動の優秀標語・ポスター表彰では、南陽市立宮内小学校4年小原 縁さんを始め5名の方が受賞されました。



### 【少年の主張】

第64回山形県少年の主張大会で最優秀を受賞した鶴岡市立第二中学校3年の石塚桃心さんが「命の叫びを伝える」と題し、アウシュビッツ強制収容所を訪れた経験を紹介し、「私たちには戦争を繰り返さない責任がある。これからも命の叫び、平和の大切さを伝える人でありたい。」と強く訴えました。



「私たちに戦争を繰り返さない責任がある。これからも命の叫び、平和の大切さを伝える人でありたい。」と強く訴えました。

### 【事例発表】「はぐろ大家族会議の今」

鶴岡市青少年育成市民会議羽黒地区会議 会長 勝木正人 氏

平成25・26年度に山形県警の「少年非行防止ネットワーク」の指定を受けたことを契機に異世代間意見交換会（愛称「はぐろ大家族会議」）の取り組みが始まり、コロナ禍でもWeb会議で継続し、コロナ禍後は、意見交流だけにとどまらず、令和7年度は前年度のワークショップで出された意見をもとに「羽黒のフルーツでスイーツクッキング」のテーマのもと、地元食材を使って実際にケーキ作りを行ったという継続・発展してきた実践について紹介していただきました。

少子高齢化が進む地域で、規範意識の醸成と社会性育成、まちづくりとしての中高生と大人の協働を強化し、今後は“アイデア競争から共存社会志向へ”“参加範囲の拡大”“地域回帰を促す体制整備”を目指したいとの決意表明がなされ、大変学ぶことの多い発表となりました。



### 【記念講演】「レジリエンスを高めよう」 山形県公認心理師・臨床心理士会協会 会長 伊藤洋子 氏



コロナ禍・物価高騰・家庭の困難・学校や地域の構造変化など多難な社会状況を踏まえ、子どものレジリエンス（回復力）を高める重要性和、地域ぐるみの支援体制構築の必要性について講演いただきました。特に、子どもたちの自己肯定感・自尊心等を育むためには、親や大人が共感的に傾聴し、“結果”より“過程”を重視し、勇気づけることが大切であると強調されました。また、安心して弱音を話せる関係性と安全確保が重要であり、地域として「育成」に向けた意識をこれまで以上に高めるとともに、大人自身のレジリエンスを向上させることが、子どもの回復力を支えるカギになると締めくくりました。



# 置賜地区青少年育成推進員研修会



11月30日(日) 飯豊町町民総合センター「あ〜す」を会場に開催しました。前半は、置賜消費者センター防災安全主査 嶋倉 哲氏より「若者のインターネットトラブルの現状と対策」について講話をいただきました。若年層に多発するオンラインゲーム課金や副業詐欺に関しては、金銭感覚の欠如がトラブルの根底にあると指摘。また、SNS利用に関しては、定期購入トラブルや未成年者取消権の限界、SNSでの炎上事例から、安易な投稿が「デジタルタトゥー」として人生に深刻な影響を及ぼす危険性を警告し、投稿前のセルフコントロールやリテラシー向上の必要性を強調されました。

後半は、長井市と飯豊町の青少年推進員による活動発表がありました。長井市青少年育成推進員会長 鈴木昌克 氏からは、防犯パトロールや中高生との対話会等、飯豊町青少年育成推進員会長 伊藤 昭 氏からは、中学生が主体となる学習支援や地域イベントでの出店等の活動が紹介されました。

特に特徴的なこととして、両市町での活動では青少年の自主性、未来志向型の話し合いを通じて、自己形成や他者に対する尊重、地域社会への参画意識の醸成、郷土愛・誇りを育むという崇高な目的のもとに行われていることが挙げられます。

事例発表を踏まえた質疑応答・情報交換が行われ、各市町が連携し、青少年の自主的な活動を促す仕組みづくりの重要性が確認されました。

発表の準備をしていただきました長井市・飯豊町の関係各位に感謝申し上げます。



賃貸住宅建設大手の大東建託が「街の住みこちランキング&住みたい街ランキング 2025〈山形県版〉」を発表しました。県内のランキング中、置賜地区では、

街の幸福度ランキング	3位：高畠町	8位：白鷹町
住み続けたい街ランキング	2位：白鷹町	8位：高畠町
自治体ブランドランキング	1位：米沢市	

という結果でした。



特に「愛着がある」の項目で白鷹町が1位、高畠町が2位でした。また「誇りがある」の項目で高畠町が2位、白鷹町が4位でした。

他と比べてないものねだりをするのではなく、受け継がれた文化や豊かな体験、温かな人々との交流が「誇り」となって「郷土愛」を育むのではないのでしょうか。

街の住みこち&住みたい街ランキング 2025

## 毎月第3日曜日は「家庭の日」

12月

「家族みんなで協力して、仕事を分担して助け合う」

・掃除や食事の準備など  
家庭の仕事を分担して  
行いましょう。



1月

「新しい年を迎え、  
一年の計画をたてる」

・各自の夢やわが家の目標などを家族で  
話し合い、家族の「〇〇の日(目標の日  
や記念の日)」をつくってみましょう。

上段が月別推進テーマ、下段が行動実践事例です。

家族そろって笑顔で過ごす時間をつくりましょう